

## 第11回アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム (CAAS) シンポジウム "Diversity and Representation: Representing Diversity, Diversifying Representation" 報告記

加藤雄二

コロナ禍で学会活動が滞りがちな状況を打開するべく、博士後期課程「多分野交流研究」の参加メンバーを中心として、本学もその一端を担う CAAS の第 11 回学会に本学からオンラインで参加しました。

学会は、ロンドン大学 SOAS の主催で 11 月 11 日 (木) から 13 日 (金) までの 3 日間をフルに使って開催され、世界各国からの参加者による研究発表と活発な議論で盛り上がりました。下記以外にも、本学からは松隈潤先生、野平宗弘先生、品川大輔先生、Onon Enkh-Amgalan さん、Fafa Sene さんなどが参加されております。

文学・文化関連の参加メンバーは、教員として加藤雄二と Iris Haukamp 先生、博士後期課程に在籍する張希毅さん、サラ・シルウィーディーさん、リ・シトウさん、楊柳岸さん、張一弛さん、熊沢真沙歩さん、トウ・ムビさん、Carlo Stranges さんでした。うち 9 名は、大江健三郎を論じる独立したセッションと、戦後日本文学に焦点をあてたセッション、日本文学、映画におけるジェンダーを議論する 3 つのセッションに分かれて研究発表を行い、Carlo Stranges さんは 3 日目のアフリカ関係のプログラムで現代アフリカン・アメリカンの文学について研究発表を行いました。

いずれの発表者も題材に積極的に取り組み、優れた成果を披露できたのではないかと思います。SOAS の Wen-chin Ouyang 教授などから暖かいお言葉をいただき、学会参加を無事終えることができました。今後、参加者が国際学会で活躍するための足掛かりとなることを願っています。英文概要と発表原稿の作成、及び発表内容の指導は、加藤と Haukamp 講師が行いましたが、Haukamp 先生のご指導がなければ、メンバー揃っての学会参加は叶わなかったはずです。この場をお借りして御礼申し上げます。

プログラム内容は以下の通りでした。

Panel 1: Revisiting Oe Kenzaburo's "The Village": Ambiguities, Narratives Diversities, and the South (TUFS) Chair: Sarah Sherweedy

1. ZHANG Xiyi

"The Life that Breaks Out of Boundaries: The Representation of 'Being in Japan' in Oe Kenzaburo's Novels."

2. Sarah SHERWEEDY

"The Portrayal of 'the Others' in William Faulkner's 'Yoknapatawpha' and Kenzaburō Ōe's 'The



Village' (Tanima no Mura).”

3. LI Zidong

“Diversifying Histories and Narratives: The Image of the Ghost in Oe Kenzaburo and William Faulkner.”

Panel 2: The Spaces of Diversity in Post-War Japanese Literature: The Ambiguities of the Outside/ Inside, Tsutomu Mizukami’s China, and Yu Miri’s Metaphor of the Mind (TUFS) Chair: Yuji Kato

1. Yuji KATO

“Opening Up the Spaces for Diversity in Post World War II Japanese Literature: An Overview.”

2. Liuan YANG

“The Presentation and Disappearance of Religious and Cultural Diversity in Sino-Japanese Exchanges—Focusing on *The Flute of Xuzhu: A Study on Shakuhachi*”

3. Yichi ZHANG

“The Tiles as the Basis for Diverse Representations: Metaphorical Meanings of Yu Miri’s *Tile*.”

Panel 3: Kawabata, Sagan, and Mishima: Queer Representation and Cultural Discourses on Sexual Diversity in Transwar Japan as Seen through Literature and Film (TUFS) Chair: Iris Haukam

1. Kumazawa Masaho

“Queer representation in Kawabata Yasunari’s works: Gender diversity and resistance to patriarchy in wartime Japan.”

2. Iris Haukamp

“Girls in Uniform (1931) in Japan: Representational diversity and transnational film culture.”

3. Teng Menwei

“Beyond homosexual representations: The fluidity and diversity of identity in Mishima’s *Haruko* (1947) and *Confessions of a Mask* (1949).”

日時：2021年11月11日（木）～13日（土）

場所：オンライン

< CAAS 加盟機関 >

フランス国立東洋言語文化大学（フランス）

ライデン大学（オランダ）

ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（英国）

コロンビア大学（米国）

韓国外国語大学（韓国）

上海外国語大学（中国）

東京外国語大学（日本）